

平和と憲法守る東京に

鳥越候補を伊波・澤地氏ら応援 新宿

都知事選



(写真)鳥越都知事候補(車上奥)の訴えを聞く人たち=26日、東京・新宿駅東南口

有力3候補がしのぎを削る大激戦となっている東京都知事選(31日投票)で、野党統一の鳥越俊太郎候補は26日、板橋区の大山ハッピーロード商店街や大山駅南口、新宿区の新宿駅東南口で演説し、「東京を平和、憲法を守る都市に」と訴えました。

新宿駅東南口では、参院選沖縄選挙区で自民党の現職大臣を破って当選した伊波洋一参院議員や、作家の澤地久枝氏ら9人の応援を受けてマイクを握りました。

鳥越氏は「待機児童ゼロ、(特養ホーム入所待ちの)待機高齢者ゼロの二つのゼロを実現したい」と宣言。保育士や介護士の給与が低過ぎる問題について「日本社会、東京都が向

き合ってこなかったからこうなっている。今、手を打たなければならない」として、都として処遇改善に力を入れたいと述べました。

「核武装もあり得るといふ人を知事にするわけにはいきません。核兵器も原発もいらぬ」と強調。「二度と戦争をしない。そのために憲法9条を守ろう。いかがですか?」と呼びかけると、雨の中、駅前を埋めた聴衆から大きな拍手がわき起こりました。

澤地氏は「これは東京だけの選挙ではありません。負けるわけにはいきません」と強調。伊波氏は「都民、国民の声を聞く政治を誕生させなくてはなりません。鳥越さんを当選させて、東京から、沖縄から、日本を変えよう」と呼びかけました。

2016年7月27日(水)

鳥越氏押し上げへ一致団結

都知事選 小池・枝野氏が応援

日本共産党の小池晃書記局長と民進党の枝野幸男幹事長は26日、東京都足立区のJR綾瀬駅前で、最終盤に入った東京都知事選の野党統一候補・鳥越俊太郎氏を応援する街頭演説に臨みました。宣伝カー上には、共産、民進両党の各衆院東京13区候補（斉藤まりこ、北條智彦両氏）も肩を並べて訴えたほか、宣伝に両党の足立区議らも参加するなど、一致団結して鳥越氏の押し上げに取り組みました。

枝野氏と一緒に立つのは「違和感がなくなった」と共闘の深まりにふれた小池氏は、「なんでこうなっているのか。国の政治も、東京都の政治も、あまりにもひどいからだ」と強調。自公両党が担いだ都知事が2代続けて「政治とカネ」で辞めた異常な都政を変え、二度と再び「政治とカネ」の問題を起こさずに都政を担えるのは鳥越候補しかないと訴えました。

小池氏は、自公丸抱えの増田寛也候補について、「政治とカネの問題を口にする資格すらない」と指摘。小池百合子候補については、2007年から自民党都連副会長を務めるれっきとした自民党員であり、辞めた2人の知事を応援した責任があると指弾。「“反自民”のフリをして、『自民党はちょっと...』という人の票をかき



(写真) 鳥越候補への支持を訴える小池書記局長(左)と枝野幹事長(右) = 26日、東京都足立区

集め、都知事になったら“やっぱり自民党です”というつもりだ。絶対にだまされてはいけない」と強調しました。

小池氏は、保育園にも特養ホームにも入れず、正社員にもなれず、学費が高く大学にも行けない東京をつくったのは自民党政治であり、「これを変えるのが今度の選挙だ」と指摘。大型開発優先から、暮らしを真剣に支え、憲法を生かす都政へ転換する鳥越候補勝利のために、「知っている人すべてに、知らない人にも声をかけて、やれることを全部やろう」と呼びかけました。

枝野幹事長も、幅広い人たちが鳥越候補を応援する状況をつくったのは自民党そのものだと「野合」批判を一蹴し、2代続けて知事が辞めた事態をつくって反省もなく出馬した小池候補を厳しく批判。有力候補で利権のしがらみのない人は鳥越氏だけだと述べ、支持を訴えました。

2016年7月27日(水)

東京から男女平等を 女性勝手連が鳥越候補に要請

激戦の東京都知事選で鳥越俊太郎候補を都知事にして、東京から男女平等を実現しようと25日夜、「東京から男女平等を実現する女性勝手連」が都内で鳥越候補に要請書を手渡しました。女性勝手連の竹信三恵子・和光大学教授は「一人ひとりの声を聞き、現場へ行き、自分の目で見て政策をつくってくれる鳥越さんにぜひ実現をお願いしたい」と語りました。

女性勝手連は、都知事選挙で、男女平等に後ろ向きな候補が当選してしまう危機感から、21日に急きょ結成されました。学者、弁護士、社会運動家らが名を連ねています。

要請書は「都知事のリーダーシップで、東京から男女平等が実現することを期待しています」と表明。「石原都政が後退させた男女平等・人権保障の取り組みを取り戻し、個人の多様性を尊重して差別や暴力のない東京をつくる政策」として、女性副知事の登用、男女平等参画政策の立案・実行・検証のための全庁的な体制づくり、性暴力被害者への支援強化、ひとり親家庭・子どもの貧困問題に取り組んで、学び、働き、生きやすい東京をつくることなどを提案しています。

25日夜、女性勝手連は墨田区内で集会を開催。早稲田大学教授の浅倉むつ子さんは「女性の声を鳥越さんに届けましょう」と語りました。江東区で開かれていた鳥越候補の個人演説会に代表が赴き要望書を手渡しました。

集会では、日本共産党の池内さおり衆院議員、民進党の神本美恵子参院議員、社民党の福島瑞穂参院議員があいさつしました。

2016年7月27日(水)

問われる大型開発優先都政

小池・増田候補 ゼネコン型推進

鳥越候補「都民のくらし優先」

都知事選

東京都知事選では、幹線道路や大型開発優先から、都民の福祉・くらしを優先する都政に転換するかどうかが問われています。

自民党の2候補はいずれも、舛添要一前知事が策定した「都長期ビジョン」(2014年)について、「非常によくできている」(増田寛也氏=自民・公明・こころ推薦)、「とてもよくまとめられている」「私はこれを継承していきたい」(小池百合子氏=前自民党衆院議員)と高く評価。大型開発優先都政を継続しようとしています。

同ビジョンは、幹線道路や国際港湾、都心部再開発など大型開発を推進する一方で、都民の福祉・くらし支援策は極めて不十分です。3カ年の事業費(総額3兆7400億円)のうち、都市インフラ事業費7800億円(約21%)に対し、福祉関係事業費は2900億円(約8%)にすぎません。

小池氏は、東京に海外の金融企業を呼び込む国際金融センターづくりを主張し、「東京からアベノミクスをもっともっと引っ張っていけるような知事を目指したい」と明言。石原慎太郎、猪瀬直樹元知事が推進を打ち上げたカジノ誘致について、「IR(特定複合観光施設)」という形で統合型リゾートという発想で推進を表明しています。

増田氏は、雑誌『中央公論』(15年11月号)の誌上対談で、「田中角栄元首相の『日本列島改造論』はもちろん、地方の暮らしをよくするためのものでした」と評価しています。

「日本列島改造計画」は、ロッキード事件で逮捕された田中角栄元首相が70年代に、北海道の苫小牧東部、青森県のむつ・小川原など企業を呼び込むコンビナート団地づくりなど、ゼネコン奉仕の大型公共事業を推進しましたが相次いで失敗、もうかったのはゼネ

コンや一部企業だけでした。

増田氏は、岩手県知事時代に県の借金（起債残高）を2倍に膨らませ、県財政を危機的状況に陥れた“実績”があります。

大型開発優先から、都民の福祉・くらしを優先する都政への転換を公約しているのは、4野党統一候補の鳥越俊太郎氏だけです。

鳥越氏は「大型公共事業偏重をやめ、待機児童や介護問題の解決など、都民の暮らしを優先する」と訴え、「カジノには反対」ときっぱり。2020年東京五輪・パラリンピック開催経費の膨張問題について、「コストはできるだけ縮減し、コンパクトでスモールな平和の祭典に」と主張しています。